

## コウジン末（正官庄）の糖尿病性腎症に対する臨床的研究

—進行阻止と予防効果について（第2報）—

関西医科大学 第一内科 鉄谷 多美子 山口 多慶子 葛野 公明  
牧野 純子 安永 幸二郎

〔目的〕糖尿病性腎症に対する紅蔘末〔正官庄（以下紅蔘）〕の有効性について検討した。

I：臨床的アプローチ。対象は試験紙法で尿蛋白陰性のNIDDM 118例を3群に大別した。グループIは微量アルブミン尿期の29例、グループIIを2群に、すなわち治療開始時期の指標を満足したコントロールA群18例と、指標を満足しないB群39例の計57例である。グループIIIは持続的蛋白尿期の32例である。

治療開始期間は既報の如くアルブミン指数（Al）から男性36mg/g creat.以上、女性52mg/g creat.以上と設定した。紅蔘は1日6g（or 4.5g）を6カ月以上、24カ月余にわたり与薬（グループI、III）した。効果はAl、腎機能の推移から初期と遠隔成績から評価した。

成績：①初期効果（6カ月後）はグループIは36%、グループIIIは31%であった。②遠隔成績（12カ月以上24カ月後）では、約40%が間歇的蛋白尿期（グループI）あるいは慢性腎不全期（グループIII）へと進行性であった。他方、グループIIのA群では、68%が間歇的蛋白尿期へと進行した。

II：生化学的アプローチ。

1) ジンセノサイドRb<sub>2</sub>の腎における代謝能を、GAT（グリシンアミジドトランスフェラーゼ）活性から検討した。Wister系メス9週令ラットを去勢し、2週後よりRb<sub>2</sub> 10mg/日、3日間経口投与後、摘出腎のGAT活性を測定した。

成績：腎GAT活性はRb<sub>2</sub>投与により増加（22.1 U）し、対照（14.0 U）の1.5倍

であった。またテストステロンプロピオーネート500μg/日、皮下投与では著明に増加（26.9 U）し、エストラジオールベンゾエート100μg/日、皮下投与では低下（8.8 U）した。

2) 紅蔘の抗血小板作用の臨床的応用。

対象は経時的に血小板内〔Ca<sup>2+</sup>〕<sub>i</sub>、（以下〔Ca<sup>2+</sup>〕<sub>i</sub>）を測定し得たNIDDM 105例（男49例、女56例）である。うち紅蔘与薬群30例、非与薬群15例ならびに健常コントロール群45例である。

成績：（I）NIDDMの〔Ca<sup>2+</sup>〕<sub>i</sub>はコントロール群にくらべて高値で、その経時的変化は腎症により強く関連して変動した。（II）紅蔘与薬群に於て治療前値に対する治療前後の差は、蛋白尿へ移行直前の時期に強い逆相関を示した成績から、〔Ca<sup>2+</sup>〕<sub>i</sub>は紅蔘により正常化の方向へ変化したと考えられた。（III）紅蔘6g/日、3カ月間経口与薬した3例（健常コントロール）では、〔Ca<sup>2+</sup>〕<sub>i</sub>、血小板凝集能について一定の傾向を認めなかった。

III結論：1) 紅蔘と腎症の発症、進行を遅延し得る予防的治療薬である。

2) Rb<sub>2</sub>は腎GAT活性を増加させるテストステロン様の作用をもっていることから、腎GAT代謝産物である尿中GAA測定は、紅蔘の臨床的効果を判定する新しい指標になるものと期待された。

3) 紅蔘は血小板内〔Ca<sup>2+</sup>〕<sub>i</sub>の異常を是正し、正常状態を維持するための調節作用をもつと考えられた。